

# 医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会 第1次報告

## 医療機能別病床数の推計方法及び推計結果の概要等

### 1 推計方法の概要

2013年度（平成25年度）1年分のNDBのレセプトデータ及びDPCデータ等を使用。

#### 【高度急性期・急性期・回復期の境界点】

- ①高度急性期と急性期の境界点（C1）は、医療資源投入量（※1）で3,000点。
- ②急性期と回復期の境界点（C2）は、医療資源投入量で600点。
- ③回復期と在宅医療等の境界点（C3）は、医療資源投入量で225点（在宅復帰に向けた調整を要する幅を見込み、175点で区分（※2））。回復期リハビリテーション病棟入院料を算定する患者数（一般病床・療養病床）を加算。

#### 【慢性期（パターンA・パターンB・パターンC）】

- ①パターンA：全ての二次医療圏の療養病床の入院受療率（※3）を全国最小値（県単位）にまで低下するとして、推計。
- ②パターンB：全ての二次医療圏において療養病床の入院受療率と全国最小値（県単位）との差を一定割合（全国最大値（県単位）が全国中央値（県単位）にまで低下する割合）解消するとして、推計。
- ③パターンC：要件（※4）に該当する全ての二次医療圏は、パターンBの目標入院受療率の達成年次を2030年とし、2025年においては、2030年から比例的に逆算した入院受療率まで低下するとし、その他の二次医療圏は、2025年までにパターンBの目標入院受療率まで低下するとして、推計。
- ④一般病床の障害者数・難病患者数（障害者施設等入院基本料、特殊疾患病棟入院料及び特殊疾患入院医療管理料を算定している患者数）を慢性期として加算。

#### 【将来、介護施設や高齢者住宅を含めた在宅医療等で追加的に対応する患者数】

- ①4つの医療機能に分類されない医療資源投入量が、175点未満の一般病床の患者数（※5）
- ②療養病床の入院患者のうち医療区分1の70%に相当する患者数
- ③療養病床の入院受療率の地域差解消分（パターンA～C）に相当する患者数。

- ※1 患者に対して行われた診療行為を1日当たりの診療報酬の出来高点数（入院基本料相当分及びリハビリテーション料の一部を除く）で換算した値。
- ※2 医療資源投入量が175点未満の医療を受ける入院患者であっても、リハビリテーションを受ける入院患者（回復期リハビリテーション病棟入院料を算定する者を除く。）であってリハビリテーション料を含んだ医療資源投入量が175点以上となる医療を受けている場合は、回復期に分類。
- ※3 療養病床の入院患者のうち医療区分1の患者の70%に相当する者及び回復期リハビリテーション病棟入院料を算定する者を除く。
- ※4 パターンBにより入院受療率の目標を定めた場合における当該二次医療圏の慢性期病床の減少率が全国中央値よりも大きいこと、かつ、当該二次医療圏の高齢者単身世帯割合が全国平均よりも大きいこと。
- ※5 医療資源投入量が175点未満の医療を受ける入院患者であっても、リハビリテーションを受ける入院患者であってリハビリテーション料を含んだ医療資源投入量が175点以上となる医療を受けている場合は、回復期に分類されるため、除かれる。

#### 【医療機関所在地ベース（都道府県別集計）】

患者の流出入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。

#### 【患者住所地ベース（都道府県別集計）】

患者の流出入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

【病床稼働率】

高度急性期:75%、急性期:78%、回復期:90%、慢性期:92%と設定。

【性・年齢階級別人口】

2025年（平成37年）の性・年齢階級別人口は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年（2013年）3月推計）」を使用。

2 全国の医療機能別の推計結果

【2025年の必要病床数】 115～119万床程度

【高度急性期】 13.0万床程度  
 【急性期】 40.1万床程度  
 【回復期】 37.5万床程度  
 【慢性期(パターンA)】 24.2万床程度  
 【慢性期(パターンB)】 27.5万床程度  
 【慢性期(パターンC)】 28.5万床程度

3 愛媛県の医療機能別の推計結果

【医療機関所在地ベース】

2013年の病床数（千床）			2025年の必要病床数（千床）							在宅医療等で追加的に対応する患者数2025（千人）	パターン
一般・療養病床(2013)		4医療機能合計	一般・療養病床差	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	慢性期			
合計	一般病床								療養病床		
21.0	15.4	5.6	14.1	▲ 6.8	1.3	4.7	4.8	3.3	5.5	A	
			14.6	▲ 6.4				3.7	5.0	B	
			14.7	▲ 6.2				3.9	4.9	C	

【患者住所地ベース】

2013年の病床数（千床）			2025年の必要病床数（千床）							在宅医療等で追加的に対応する患者数2025（千人）	パターン
一般・療養病床(2013)		4医療機能合計	一般・療養病床差	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	慢性期			
合計	一般病床								療養病床		
21.0	15.4	5.6	14.3	▲ 6.7	1.3	4.8	4.9	3.3	5.5	A	
			14.8	▲ 6.2				3.7	5.1	B	
			14.9	▲ 6.0				3.9	4.9	C	